



西南学院大学・

図書館報

No. 50

1971年5月1日発行

福岡市西新6丁目

西南学院大学図書館



春 草 の 夢

図書館長 清 田 正 喜

狭衣物語は「少年の春は惜しめどもとどまらぬものなりければ、弥生の二十日あまりにもなりぬ」という書き出しにはじまる。庭の藤の花が松の枝に垂れさがって郭公の声を待っている。池の水ぎわの山吹が夕ばえのなかににっている。こうした春の風情に誘われて、狭衣の中将は、かねて思いを寄せていた源氏の宮のあたりに近づくと、宮は山吹の花をもてあそんでいた。そのくちなし色は夕日にいっそう美しく見えた。「いかにせん言はぬ色なる花なれば心のうちを知る人ぞなき」と、中將は妹同様の宮に絶え間ない慕情を抱いて物思いに沈んでいた。

さて、「女は春に物を思い、男は秋に悲しむ」と中国の古い書物（淮南子）にはあるけれども、平安朝のころになると、男も結構女並みに物思いに悩んでいる。いわゆる「ながめ」の心なのである。さくらの花に散ることを惜しみ、ひばりの声に悲しみが湧いたものだ。池の土手に寝ころんでみると、山は淡くかすんでいるのに、春の光はうらうらに照って、吹く風もまろやかに感ずる。つくしが群がつて揺れている。ついうとうと眠りに入る。夢は青春の色である。すなわち「いまださめず池塘春草の夢」は、朱熹の「偶成」の七言絶句の転のことばである。青春は夢多くして、とかく学問を怠りがちなので、わずかの時間をも惜んで勉強しなければならないというのだ。狭衣物語の冒頭もこの絶句に関連がなくはない。「時はと

どまらないものであるから、はなやかな春ももう過ぎてしまった」と物語風に書いている。

大学に合格した。その喜びをかみしめた。入学式も済んだ。授業がはじまる。しかし、のんびりしていると五月危機におそわれる。解放されたゆゑは心に空虚をもたらし、だらけた気分が夏休みにはいると読書さえ物うくなってしまう。「階前の梧葉すでに秋声」が聞えるところに、前期試験が行なわれる。あわてて友人のノートを借りてみても肝心のところはわからない。まさか「男は秋に悲しむ」というのでもあるまいが、授業はサボる、図書館には入ったこともない学生らしくない学生が満足に単位がとれるはずもない。答案用紙にダルマを描いて手も足も出ない意志表示ではゼロ点、「山はずれ小鳥は谷にさまようよ」の駄句をものすやからも同然である。先年、万葉集から出題して評釈させた。「わがゆゑにいもなげくらしかぎはやのうらのおきへにきりたなびけり」の解答に、「私の家で芋の投げくらをしていたところ、急に早い風が吹いて来て、芋がとんでもない方へ飛んでいき、裏の大きなへいのそばにいた霧田さんに命中して、霧田さんはのびてしまいました」（原文のまま）といううめい文があった。大まじめなので、こちらが迷った。創作もここまでくればりっぱだが、秋の採点は悲しい。せめて図書館に来て、多くの本を読み、春草の夢からさめてほしい。

利用の仕方

図書館活用のための

人名事典・人名録

司書 伊藤 治 生

「不思議なものは多い、しかも人間ほど不思議なものはない」というギリシャの詩人ソホクレスのことばがありますが、こうした人間のへてきた生涯も千差万別ですし、また人間につけられている名前もさまざまです。

その中でも、日本人の名前は、いくつもの読み方があったり、判読し難いあて字があったりして、正確に読みにくい場合がしばしばあるようです。ことに図書館の中では、目録やカードの配列の基準が、こうした人名によって検索されることが多いので、人名のむつかしさがひとしお痛感させられます。

図書館の中には、いろいろの種類の人名に関する事典や人名録が備えられています。それぞれの使いわけによって少しずつ役立つ目的がちがいますので、こういったものをいくつかご紹介してみしましょう。

人名事典類 ある人の簡単な伝記を中心にしらべたい場合には、次のような事典があります。

大人名事典 全10巻 (平凡社)

平凡社のこの大人名事典は全10巻からなるもので第7巻までは日本の関係分を、第8、9巻には諸外国の分が掲載されており、大物扱いされた人物を各巻300ひろいだし、これには肖像筆跡などが挿入されています。伝記の説明には、その典拠が明らかにされていますし、第10巻は総索引です。

岩波東洋人名辞典 (岩波書店)

岩波西洋人名辞典 ()

この辞典はよくまとまっており、見出人名は原名の発音が重んぜられ項目は①見出人名、②人名原綴、③生歿年、④本文、⑤著書・作品・文献の5要素からなっています。本学図書館の洋書目録

の人名原綴は、原則としてこの岩波西洋人名辞典によっています。

このほか、人物の重要度や関心の度合によって大項目、中項目、小項目の三段階の編成でなっている 世界人物事典 (旺文社) や

現代中国人名辞典 (外務省アジア局) などがあります。外国のものとしては、The Dictionary of National Biography, vols.

1—28. があり、英文で書かれた人名辞典のうち、最も完全なものといわれています。また手ごろなものとしては、現存している人を調べるのに便利な Who's who や、すでに死亡している人を調べるのによい Who was who というようなものがあります。このほか特殊なものとして、The Oxford Dictionary of English Christian Names や A Dictionary of British Surnames などのようなものもあります。

しかし、それぞれの分野については、例えば文学者であれば、通常の人名辞典よりはむしろ、日本文学辞典や、世界文学辞典あるいは、英米文学辞典といったものを調べる方が文学者としての説明がくわしい場合が多いのはもちろんです。

人名録類

次に現存している人についてや、ある機関や団体の組織や在職者を調べたい場合には、職員録や人名録のようなものがあります。

職員録 上下巻 (大蔵省印刷局)

これは、立法、行政、司法の全分野にわたる国の機関、公共企業体、政府関係機関および地方公共団体の機構ならびにその職名の名称とその在職者氏名を掲げてあるものです。末尾には人名索引や、歴代内閣一覧表もついています。内容に異動がはげしいので、図書館では毎年購入されています。

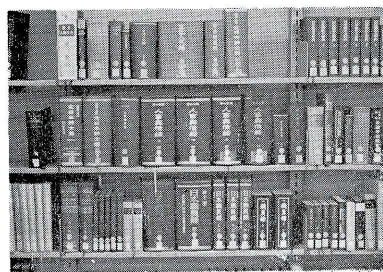
全日本紳士録

(人事興信所)

人事興信録上、下

(人事興信所)

これは官公私各界の第一線に活躍している人物、在野の著名人の氏名



および読み方、肩書、出身地、学歴、経歴、功業、著書、趣味などが記載されています。

日本職員録 上、中、下 (人事興信所)

人事興信録の姉妹編で多目的な利用を主眼としたもので、会社録的な性格をもち、全国の8証券取引所の第一、第二部上場会社を網羅し、これに多数の中小企業が加えられ、会社関係が全体の70%のほか諸団体に関するものが30%といった職員録です。

全国大学職員録 広潤社

この職員録は、全国の大学についてその所在地や学部名が記され、どういった教員組織であるかというようなこともこれでわかります。

このほか著作権台帳のようなものもありますが、特定分野の専門的なものについては、やはりそれぞれの分野の人名録をたよらなければならないようです。

西南学院大学国連寄託図書館案内



本学図書館は、国際連合より国連寄託図書館として指定をうけ、いろいろな国連の刊行物が寄託されてきています。このほか、国連の関連機関であるOECD(経済協力開発機構)やIMCO(政府間海事協議機関)などからも寄託図書館として認められ、こうした機関の資料も備えられています。

このような国連寄託図書館は、西日本地区の大学としては唯一のものであり、非常にユニークな存在として認められており、特にこうした資料は、商・経・法の各学部の皆さんには有益なものが多くので大いにご利用ください。場所は図書館の1階で、開館時間は通常、午前9時から午後4時までです。資料は館内閲覧のみで、館外貸出はいたしません。必要なところは、文献複写の申込みもできます。わからない点は係におたづねください。

1号から50号までを振り返って

図書館報の回顧

司書長 山下 和 夫



今回でこの図書館報が第50号を迎えることになった。月日のたつのはまことに早いもので、わたくしがこの創刊号を手掛けたのが昭和30年であるから、それからもう16年にもなる。そう

いえば、当時若々しい青年であった同僚諸兄も、わたくしを除けば、たいてい皆相当のお年寄りになっている。50号のこしかたは、まことに遙かなりといわねばならない。その跡を振り返ることは、すなわち図書館の歴史をたどることにもひとしい。

図書館報が誕生したのは、旧図書館(現在の電子計算機センター)が3階建ての鉄筋のすばらしい建物として完成した直後であった。その図書館は、当時西日本では初めての試みといわれた、ほとんど全面的な開架制度を採用したものであった。それは、どこまでも学生を信頼し、図書館の利用の画期的な推進を図ろうとする意図によるものであった。職員も、20才から30

才にかけての若者ばかりで、この新図書館をほんとうに活用されるものになしようと皆張り切っていたものである。この図書館報は、その中から、学生との対話を盛んにしようとする趣旨で生まれたのである。創刊号はガリ版刷りで、わずか

150部の発行と記憶しているが、末尾の

ところに「声の欄、投稿募集」とあって、学生との意思疎通を図ろうとしたあとがうかがえる。30年の秋に出した第2号は、活版印刷となったが、早速学生の投稿があって、「図書館に望む」というテーマで専門図書不足を訴えたものが掲載された。第2号の随想として、わたくしが「図書館員恐妻家論」を書いて、「〇〇図書館のK氏や××大学のI氏などいずれを見ても例外ではなさそうだ。」としたところ、早速K氏から、「うちにはKというのが2人いるが、恐妻家らしいのはそのいずれであるのか。」という問合せがあったのにはいささか驚いた。

以来、図書館報は年4回発行をたてまえとして、図書館の利用案内、読書案内、ニュースその他図書館に関する随想などを連載して今日に及んでいる。ともすれば最近は、マンネリ化の傾向が無きにしてもあらざるが、50号の跡を回顧してみると、やはり図書館報の目指すところは、創刊のころのあり方でなければならぬと反省させられるのである。

< ニュース >

図書館委員会

46. 1. 22 (議題) ①46年度図書館行事予定
②46年度図書購入方針 ③図書費残高および赤字の
処理方法
46. 3. 12 ①利用規則一部改正案 ②学部教授会
(または協議会)と図書館との連絡方法
46. 4. 8 ①研究図書費予算 ②利用規則の一部改
正案 ③大学院学生の図書館利用

職員会

46. 3. 10 ①在庫調査実施方法 ②卒業予定者の未
返却図書回収 ③受入係の新設
46. 4. 2 ①新年度の行事予定 ②職員の新配置
③業務内容の一部変更 ④年度がわりの図書費の取
扱い

司書会

46. 1. 21 ①図書費残高および赤字の処理方法案
46. 3. 9 ①受入係の新設案②利用規則の一部変更
46. 3. 16 ①図書館報第50号編集案
46. 3. 23 ①年度がわりの図書費の取扱い ②総記
部門の科目の整理統合

研修・出張

○ドキュメンテーション講習会 46.2.16~19

(於東京大学 主催文部省)

「学術情報サービスの方法と実際」「電子計算機を
中心とした学術情報の検索法」その他について研
修。山下司書長出席。

○私立大学図書館協会役員会 46.3.24

(於中央大学葉山寮) 協会の運営について協議。

山下司書長出席。

人事異動

- 退職 46. 3. 31付 藤田 昌子
配置換 46. 3. 1付 坂口 のぶ
(神学部図書館へ)
任用 46. 1. 1付 山本 幸恵
46. 4. 1付 羽野 秀明
〃 水崎 律子
〃 尾崎 金子
昇任 46. 4. 1付 (司書補に)
田中 進
府川 洋子

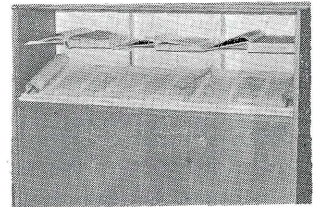
受入係の新設

これまで図書の注文・購入・台帳登録などの業務は、
それぞれ和書、洋書の各整理係が行なってきましたが、

新年度から受入係を新たに設け、これらの業務を担当さ
せることにしました。注文量の急増にともなう、その
集中管理が必要になってきたことと、渉外的業務と司書
的業務とを区分し、それぞれに能率化を図ろうとする趣
旨によるものです。

展示台の備え付け

このたび2階のロビーに展示台が備えられました。こ
の中には、図書館に所蔵しているものの中から比較的珍
らしいものを選び
展示していくこと
にしました。ある
期間ごとに展示品
をとりかえていき
ますのでご覧ください。



「文献複写サービスのご利用を。」

図書館では、図書や雑誌の複写サービスを行なってい
ます。料金は次の通りです。ご希望の方は、受付まで申
しでてください。

サイズ	単位	電子リコピー	ゼロックス
A 5 以下	1 枚	10 円	30 円
B 5	〃	15 円	
A 4	〃	20 円	
B 4	〃	25 円	

(ただしノート類の複写はおことわりしていますので
ご承知ください)

告知板

○ 利用規則の改正について

貸出期間は、これまで貸出日を含めて「8 日以内」
となっていましたが、新年度からこれを「11 日以
内」に延長いたしました。

○ 卒論特別貸出について

4 年次生は、卒業論文作成の特別貸出をすること
ができます。通常の貸出のほかに、3 冊以内、期
間は1 か月間です。希望者は係員まで申し出てく
ださい。

あとがき

この図書館報も、いよいよ50号と号を重ねてきまし
た。この号はその特集として、これまでに刊行された図
書館報の総目次を掲載しましたが、旧時を回想ながら
も、今後の図書館活動の糧にとも思っています。(伊藤)